

## ワタカの効果的な放流技術の検討

根本 守仁

## ◆背景・目的

琵琶湖固有種であるワタカは資源が著しく減少しており、資源の回復を目的に平成14年度から種苗放流が実施されている。現在は、3月に全長約50mmの種苗が放流されているが、さらに効率的な種苗放流を目指して、放流時期やサイズを変えて標識放流を実施し、効果的な放流技術について検討した。

## ◆成果の内容・特徴

- ・西の湖への標識放流結果を表1に示した。平成20年7月18日～8月8日に孵化仔魚を1,017,400尾、9月1日に平均体長17.5～19.1mmの種苗を93,100尾、9月16日には平均体長11.9mmの種苗を90,700尾、11月21日に平均体長30.7～32.6mmの種苗を115,800尾、および平成21年2月2日に平均体長30.12mmの種苗を109,200尾放流した。これらすべてに相互識別可能なALC標識を施した。
- ・3月13～15日に放流水域周辺で採捕されたワタカ0歳魚29尾について調査したところ、28尾が今回の調査で放流したALC標識魚であった。その内訳は、11月に放流したものが13尾、2月に放流したものが15尾であった。なお、孵化仔魚および9月放流魚は1尾も再捕されなかった。
- ・再捕率(今回の調査で再捕された尾数/放流尾数)を比較すると、11月放流魚では0.00635%、2月放流魚では0.01374%であり、2月放流魚のほうが2倍高かった。

## ◆成果の活用・留意点

平成15年度にも11月および翌年3月の放流での放流効果の比較を行っており、このときも今回と同様に3月放流のほうが放流効果はるかに高いという結果が得られている。11月～翌年3月までの種苗生産経費を考慮しても3月放流のほうが有効であると考えられる。

表1 西の湖への標識放流結果

月日	尾数(尾)	平均体長(mm)	ALC標識
7月18日	457,600	ふ化仔魚	0802
7月25日	73,700	ふ化仔魚	0802
7月30日	380,200	ふ化仔魚	0802
8月4日	72,500	ふ化仔魚	0802
8月8日	33,400	ふ化仔魚	0802
9月1日	93,100	17.54～19.06	0803
9月1日	215,400	22.93～25.26	0804
9月16日	90,700	11.87±2.55	0805
11月26日	68,200	30.71±4.39	0810
11月26日	47,600	32.58±4.58	0810
11月28日	88,900	33.99±5.01	0806
2月2日	109,200	30.12±4.31	0807

※ 本報告は、水産庁による平成20年度湖沼の漁場改善技術開発委託事業の成果の一部である。